

# 福知山市議会「総務防災委員会」 行政視察研修報告書

- 1 視察日程 令和5年11月7日（火）～8日（水）
  
- 2 視察先及び調査項目
  - (1) 青森県青森市  
「青森公立大学の地域内学生占有率向上の取り組み内容について」
  - (2) 愛知県名古屋市 名古屋大学減災連携研究センター  
「センターの取り組み内容について、水害対策について」
  
- 3 参加委員  
森下賢司（委員長）、岩崎崇央（副委員長）、荒川浩司、岡野天明、  
足立伸一、吉見純男、田中法男、藤本喜章（8人）
  
- 4 視察経費 総額408,460円  
(①50,870円×5人、②51,370円×3人)  
※航空券予約時の運賃差額によるもの
  
- 5 調査報告  
別紙のとおり

視 察 日	令和5年11月7日（火）
視 察 先	青森県青森市 人口 269,095人（令和5年4月1日現在） 市面積 824.61km <sup>2</sup> 議員定数 32人
調査項目 施策・取組等	青森公立大学の地域内学生占有率向上の取り組みについて
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	福知山公立大学で、本市を含む北近畿一円からの入学者がなかなか増えない中で、青森公立大学では、入学者数に対する地元地域からの進学者率が非常に高い点に着目した。何が背景にあるのか学びたいと考えた。視察前には、事前学習の委員会を開催し、市長公室大学政策課から、本市と福知山公立大学の取り組みの現状を事前学習した。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	<p>【青森市及び県内の高校への受験者増に向けた取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県内の高等学校長経験者1名を「入学者選抜専門監」として雇用し、県内及び東北6県の高校を中心に学校訪問して積極的にPR</li> <li>・ 進学説明会、高大連携講座、県内高校の進路担当者を集めて入試情報を提供する懇話会、オープンキャンパス、など多彩な企画でPR</li> </ul> <p>【県内高校生の推薦選抜の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 募集定員の約40%を県内枠として設けて、地元高校生を積極的に受け入れている。高校での評点3.5以上、内主要4教科すべて3.3以上。選抜後ではあるが、大学入学共通テスト受験を義務付けている。</li> <li>・ 県外は指定校制であり、指定した高校から1名出願できる。</li> </ul>
考察・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 専任の入学者選抜専門監を雇用して、県内高校への受験者増を図る取り組みは、各高校との連携を図る上でも効果が大きいと感じた。</li> <li>・ 開学の経緯からも「地元の公立大学」として、地元の高校生を積極的に受け入れようとする姿勢、取り組みに感銘を受けた。</li> <li>・ 県内高校生の学校推薦型選抜の出願要件にある評点は、広く出願しやすい基準であると感じた。</li> <li>・ 「地元の大学に進学したい高校生は一定数存在する。」と説明を受けたが、青森市が首都圏から距離がある地理的事情からも、地元の大学を志願する率が高いと伺えた。</li> <li>・ 福知山公立大学における志願者増に向けた取り組みも、しっかりと行われていることが感じられた。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 政策提言への反映</li> <li>・ 本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 福知山公立大学へ地元からの志願者増に向けては、高校訪問、オープンキャンパス、出前授業など、地道に取り組まれていることも再認識できた。これからも継続した取り組みが行われることを注視しつつ、提言もしていきたいところである。</li> <li>・ 福知山市が京阪神に比較的近い地理的事情なども、地元高校生が都市部の大学に憧れを抱く背景の一つともいえる。これを克服して地元高校からの志願者を増やすには、大学の魅力を高めるための不断の努力が必要であると実感した。</li> </ul>

視 察 日	令和5年11月8日（水）
視 察 先	愛知県名古屋市 名古屋大学減災連携研究センター 愛知県名古屋市千種区不老町1 名古屋大学減災館
調査項目 施策・取組等	センターの取り組み内容について 水害対策について
視察理由 事前研究等の概要とそれに基づく調査項目・視察先の選定理由等	福知山公立大学に地域防災研究センターが開設されて3年目となり、災害が多い本市の防災・危機管理の研究拠点としての飛躍が期待される。名古屋大学減災連携研究センターの充実ぶりを知り、本市の防災・危機管理施策への参考になる学びができると考えた。事前に福知山公立大学で研修会を開き、事前学習を実施した。
調査概要 調査項目の施策・取組等の実施状況等	<p>【センターの取り組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・センター自体が、「減災館」という資料館になっており、展示品、研究員の充実ぶりが見事である。地震を中心とした自然災害の研究、防災アカデミー、減災カフェ、高校生防災セミナーなど、研究拠点であると同時に市民に広く公開した連携事業を多数実施されている。減災館の見学者にはリピーターが多いと聞いた。</li> </ul> <p>【水害対策について】</p> <p>研究活動の中心は地震についてだが、水害に特化した研究員も在籍され、地震が引き起こす津波による水害被害研究にも注力されている。</p>
考察・効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国からの運営費交付金のごくわずかで、寄付金、受託研究費などの外部資金に期待しながら研究活動を展開されていることに感心した。</li> <li>・愛知県、名古屋市としっかり連携がとれていることが伺えた。</li> <li>・大手民間企業からも研究員として出向者を受け入れて共同研究されていたり、産学連携も充実していることを学んだ。</li> <li>・「若い人が地域防災に関わることが大事」との観点から、高校生や若い世代の市民を巻き込んで多彩な教室やセミナーを開催されており、市民への公開が非常に充実していると感じた。</li> <li>・減災館は、特別企画展を実施するなど、新しさを演出する工夫もされており、素晴らしい運営形態である。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・政策提言への反映</li> <li>・本市での施策実現に向けた比較研究（効果及び課題）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震が多い地域ゆえ、研究分野も地震を中心として地震に起因する水害や土砂災害などに重きを置かれているようで、本市の防災・危機管理施策に直ちに反映するのは難しいかもしれないが、大学の防災研究拠点としての研究のあり方や組織運営体制、外部組織との連携のあり方などは大いに参考になる。</li> <li>・福知山公立大学地域防災研究センターとも連携可能な分野での共同研究や連携などを期待したい。</li> </ul>